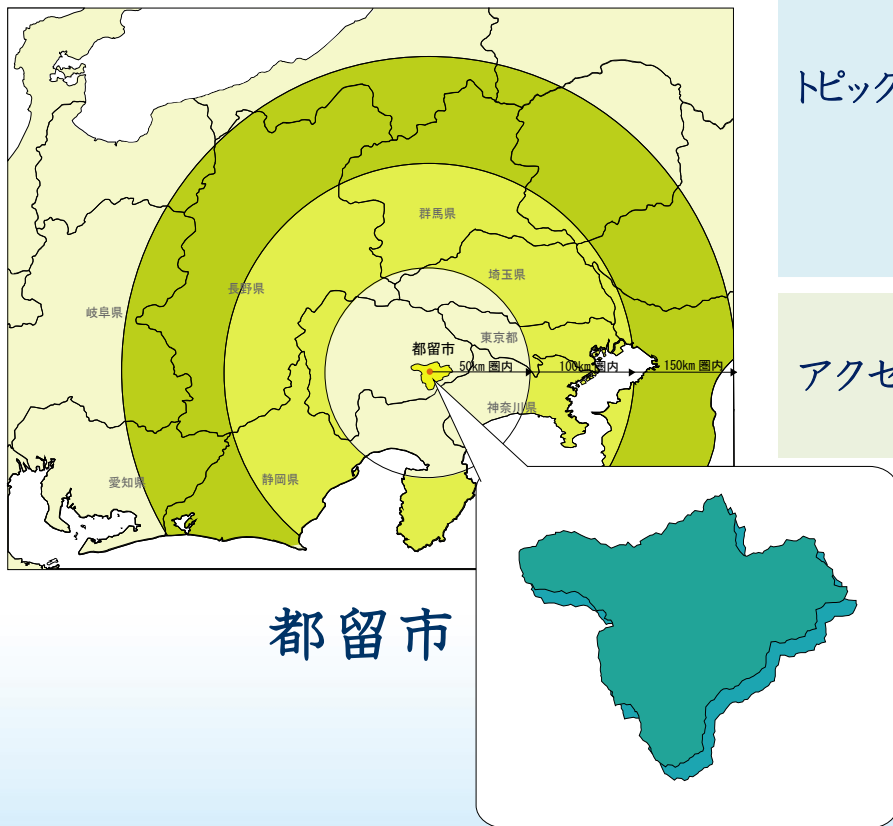


都留市版大学連携型CCRC
「生涯活躍のまち・つる」

つるの
まち・
ひと・
しごと

都留市総務部企画課

▶都留市について



人 口

32,002人(H27国勢調査)

トピックス

- ・市民の10人に1人が大学生
- ・リニア見学センター(年間30万人)
- ・「道の駅つる」オープン(平成28年11月)
- ・平成の名水百選「十日市場・夏狩湧水群」
- ・小水力市民発電所「元気くん1・2・3号」

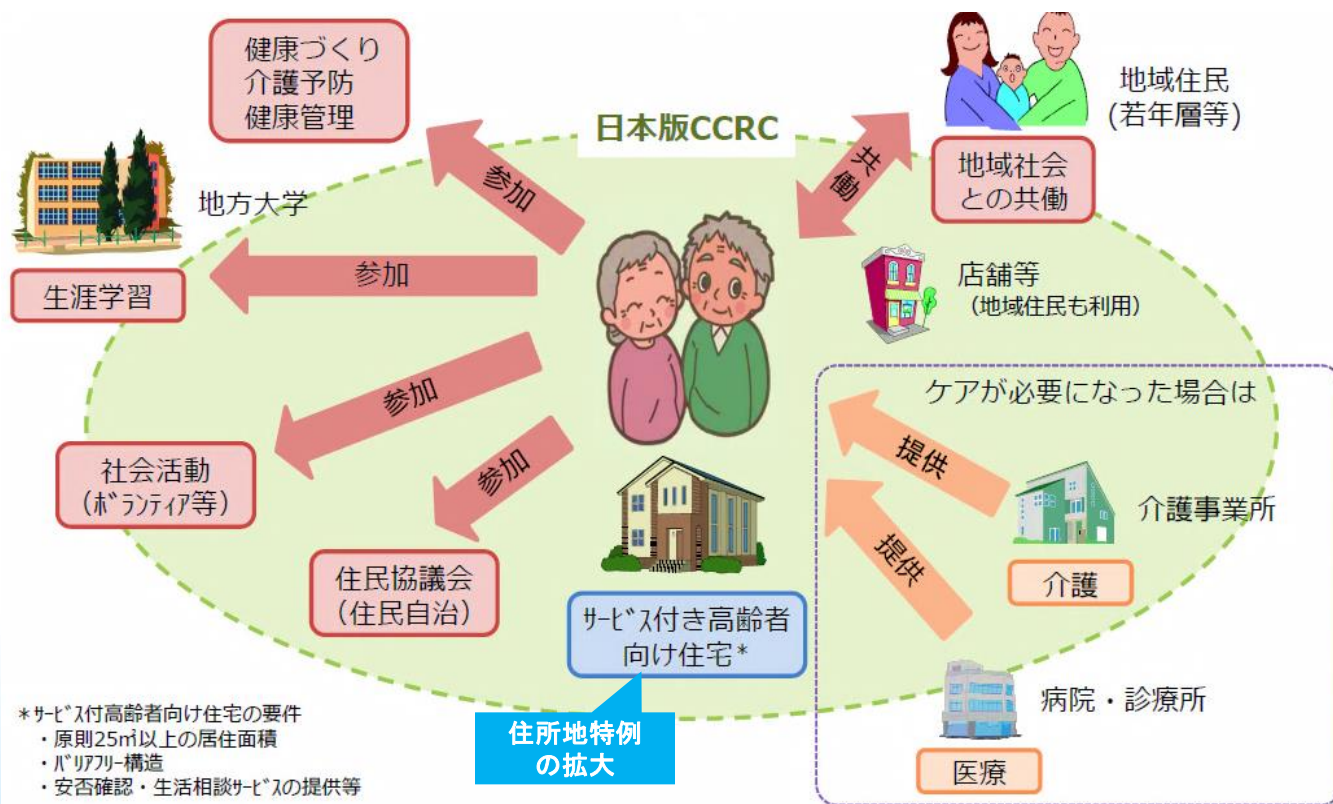
アクセス

- ・新宿から90km
- ・電車で約80分、車で約60分

▶ 「日本版CCRC（生涯活躍のまち）」とは

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供
- ②自立した生活ができる居住環境の提供
- ③居住者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成

【Continuing Care Retirement Community】



*サービス付き高齢者向け住宅の要件
 ・原則25㎡以上の居住面積
 ・バリアフリー構造
 ・安否確認・生活相談サービスの提供等

日本版CCRC (従来の高齢者住宅)

【入居時の健康状態】
 健康なうちに
 (具合が悪くなってから)

【入居動機】
 楽しみたいから
 役立ちたいから
 (不安だから)

【地域との接点】
 地域に開かれた
 コミュニティ
 (地域と接点なし)

【入居者の位置付け】
 地域の担い手
 共助する人
 (支えてもらう人)

H27.2.25第1回日本版CCRC構想有識者会議資料より

「生涯活躍のまち・つる」推進の背景

◇国の課題と現状

- ・人口減少、超高齢化、東京一極集中
- ・2025年介護問題
- ・都市圏の移住希望者の増加
- ・日本版CCRCの胎動（住所地特例の拡大）

◆市の課題解決

- ・人口減少、高齢化
- ・産業の停滞
- ・交流産業空洞化

◆市の重点施策

- ・「シルバー産業」の構築、推進
- ・高齢者の居場所づくり
- ・健康づくりの環境整備
- ・大学（高等教育機関）との連携

生涯活躍のまち・つる（都留市版CCRC）

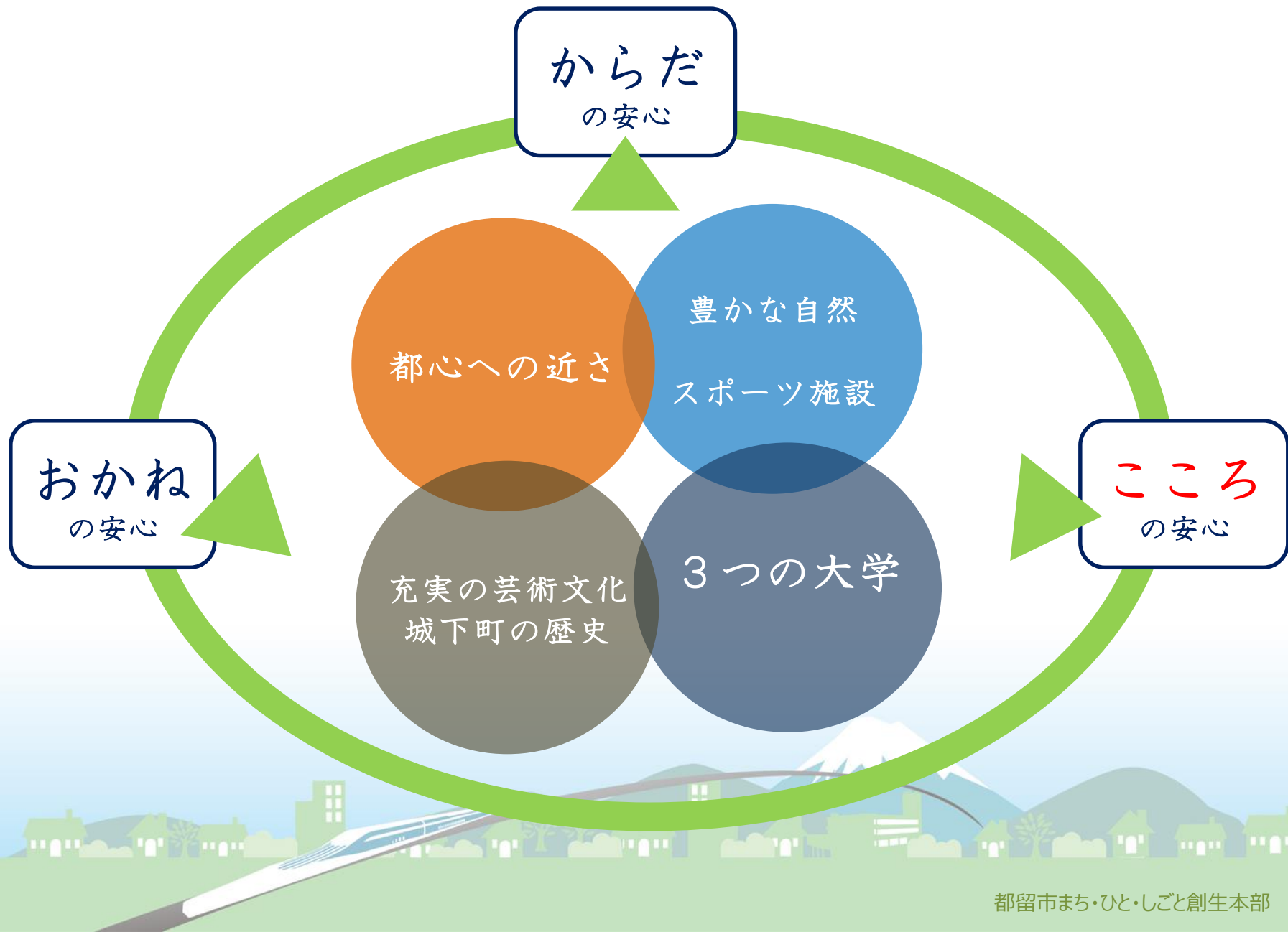
- 都市部の高齢者を主な対象とした居住施設の整備
- まちの「強み」（地理・歴史・教育・自然）の活用
- 都留文科大学を核とした大学連携型

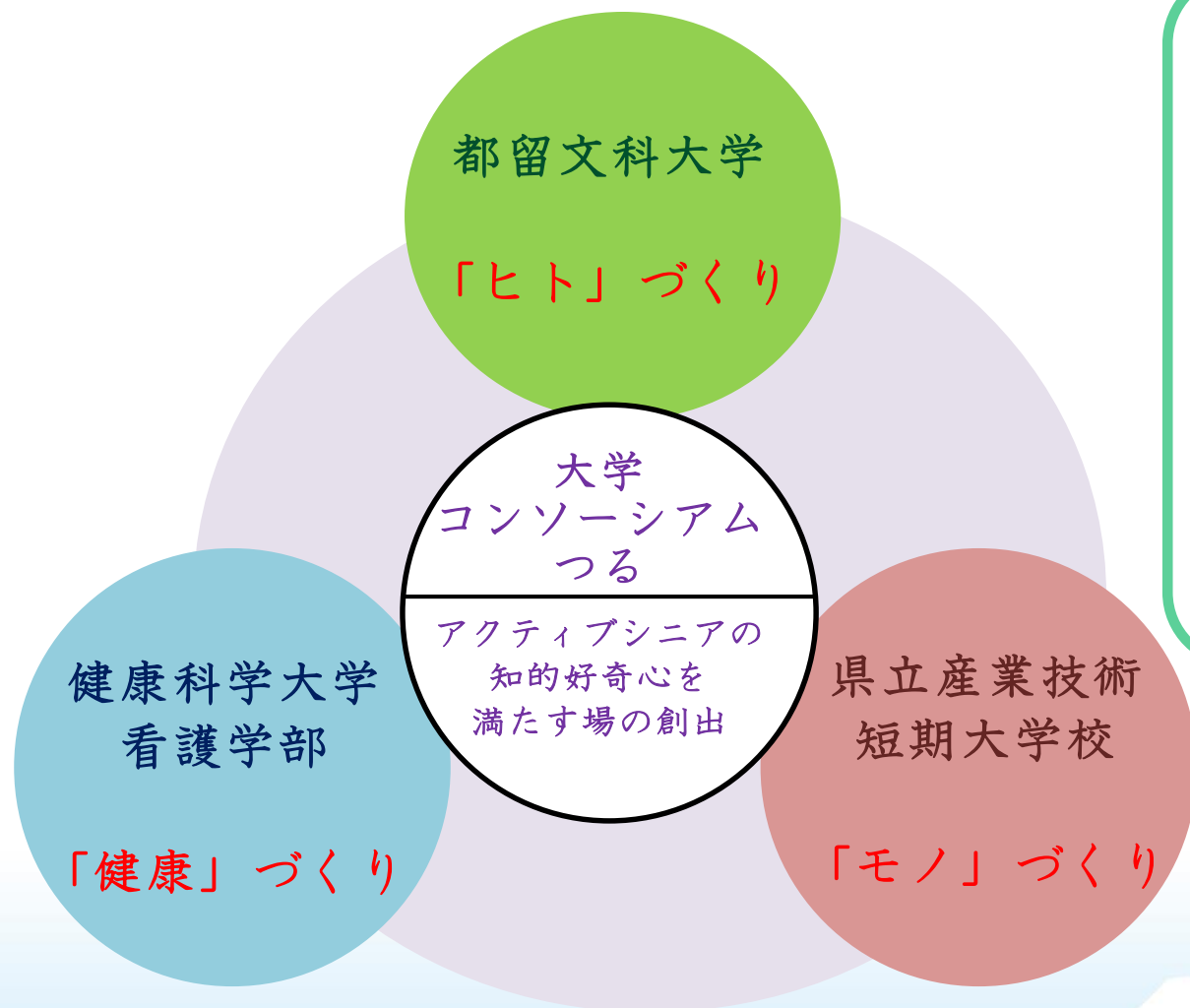
短期的効果

- ◎人口減対策
- ◎雇用創出・ビジネスチャンスの創出
- ◎税収の増加
- ◎高齢者にやさしいまちづくりのPR
- ◎新たなコミュニティの創出

長期的効果

- まちぐるみの健康増進
- 新たな地域の担い手の誕生
- 大学連携の強化（地域貢献・知的資源活用）
- 地域資源の再生
- 地域経済活性化





地域づくりとの連携で
大学に期待される
教育・研究の充実

- ・実践的教育の場
- ・学生のキャリア支援、就職力向上
- ・研究領域の深耕
- ・新たな研究領域創出
- ・社会実験、実証研究機会
- ・生涯学習サービスの充実
- ・シニア、地域からの新たな学び

▶ 「生涯活躍のまち」の主な取組

平成25年度	12月	シルバー産業の構築・推進（市長公約）
平成26年度	6月～	都内8自治体（区長）や介護関連企業へのトップセールス実施
	9月	国の「まち・ひと・しごと創生本部」設置
	10月	「都留市まち・ひと・しごと創生本部」設置
	11月	まち・ひと・しごと創生法制定
	12月	国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定
	2月	「日本版CCRC構想有識者会議」設置
平成27年度	4月	大学連携型都留市版CCRC推進班（5プロジェクトチーム）の設置 ⇒居住環境整備PT/大学連携PT/生涯学習・地域連携PT/健康づくり支援PT/移住定住促進PT
	10月	「大学コンソーシアムつる」の立ち上げ
	2月	「都留市CCRC構想研究会」の立ち上げ（～28年度まで7回開催）
平成28年度	6月	国の生涯活躍のまち支援チームの対象とする支援7自治体に選出
平成29年度	6月	下谷居住単独型プロジェクトの運営事業者決定（30年度工事完了予定） 下谷居住単独型プロジェクト交流拠点整備（29年度工事完了予定）

▶事業の担い手の創出

○「大学コンソーシアムつる」の立ち上げ

- ・市内に立地する3大学の連携の場として、「大学コンソーシアムつる」を立ち上げ（H27.10）。大学相互の連携・交流事業や、合同の地域貢献事業、そして、都留市で生活する方に向けた生涯学習プログラムの形成を進めている。

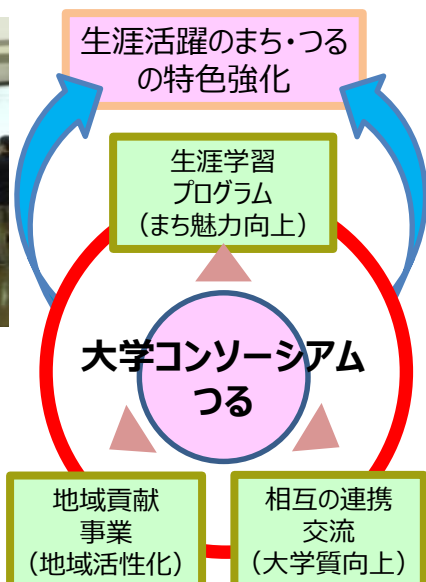
○「都留市CCRC構想研究会」の立ち上げ

- ・本市を進める「生涯活躍のまち・つる」に対して関心を持つ事業者・市民等と大学が集い、異業種・市民・大学間の連携・対話を進め、事業推進手法や事業実施主体の形成を行う「都留市CCRC構想研究会」を立ち上げ（H28.2）。H29.2までに7回の研究会を開催。

大学コンソーシアムつる



都留文科大学、健康科学大学看護学部、山梨県立産業技術短期大学校の3校が連携し、相互交流や、地域貢献事業を展開。また大学の特色を活かした生涯学習プログラムの形成も実施。

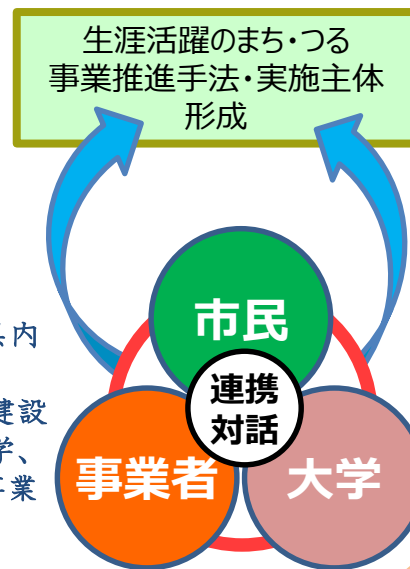


都留市CCRC構想研究会



第1回研究会は、H28.2.3開催。県内外より、113社が参加。参加者内訳は、介護福祉関連、建設関連、生活関連、金融関連、大学、IT関連など。H29.2現在も多くの事業者が参加中。

（山梨中央銀行と共同で開催）



▶参加できる地域のプログラム例

- 生涯にわたって活躍できるように、誰もが参加・参画・協働できるプログラムの整備
- 生涯学習プログラム、健康プログラム、また、受ける立場から与える立場の仕組みづくり

大学連携



↑市民と学生の合同農業サークル



←大学が市民向けに主催する市民公開講座。地域をテーマとした講座のため、市民の関心度も高い

都留文大教授陣がお気に入り → の映画を解説し、鑑賞する「文大名画座」



一般的な聴講生・履修生制度のほか、各種講座、学生が企画する講演会や市民がメンバーに加わるサークルの活動などが活発。

地域活動



←高齢者の学びの場として開校している「鶴寿大学」は、本格的な入学式・卒業式もある、「高齢者市民大学」として機能



↑各自治会ごとに整備を進めている多世代交流の場、地域の健康づくり拠点となる「いーばしょづくり」事業

余暇を活用して作った → 農作物を道の駅へ出品することも可能



そのほか、健康になるほど商店街ポイントがたまる「健康ポイント」も実施
市民活動支援センターも開設し、様々な相談に乗ることが可能

地域では様々な団体がすでに活動しており、これら活動に参加するための窓口も開設。

▶2つのプロジェクトの概要

単独型居住プロジェクト（下谷）

形態：既存の団地等のストック活用

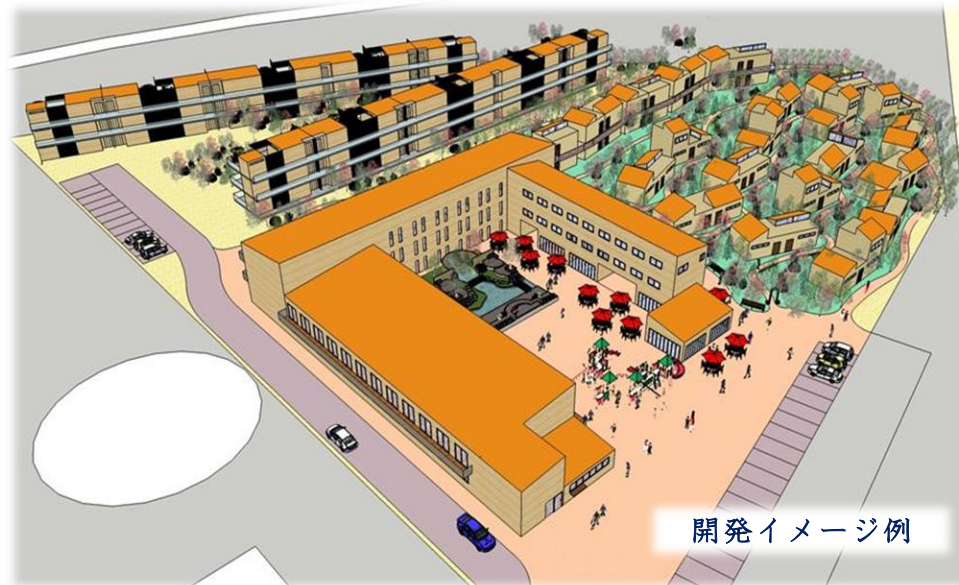
立地：まちなか型

規模：2棟程度（最大80戸）

- ・選定事業者が土地等を貸し、事業者がサ高住に改修・運営
- ・家賃は3万円程度を目途として事業者提案
- ・市内高齢者向けの一定の優先入居枠を設定
- ・食堂などの地域交流拠点を併設（H29年度から市が整備）
- ・健康科学大学との連携を推進
- ・賃借料や固定資産税額の軽減支援策を検討



旧下谷雇用促進住宅



開発イメージ例

複合型居住プロジェクト（田原）

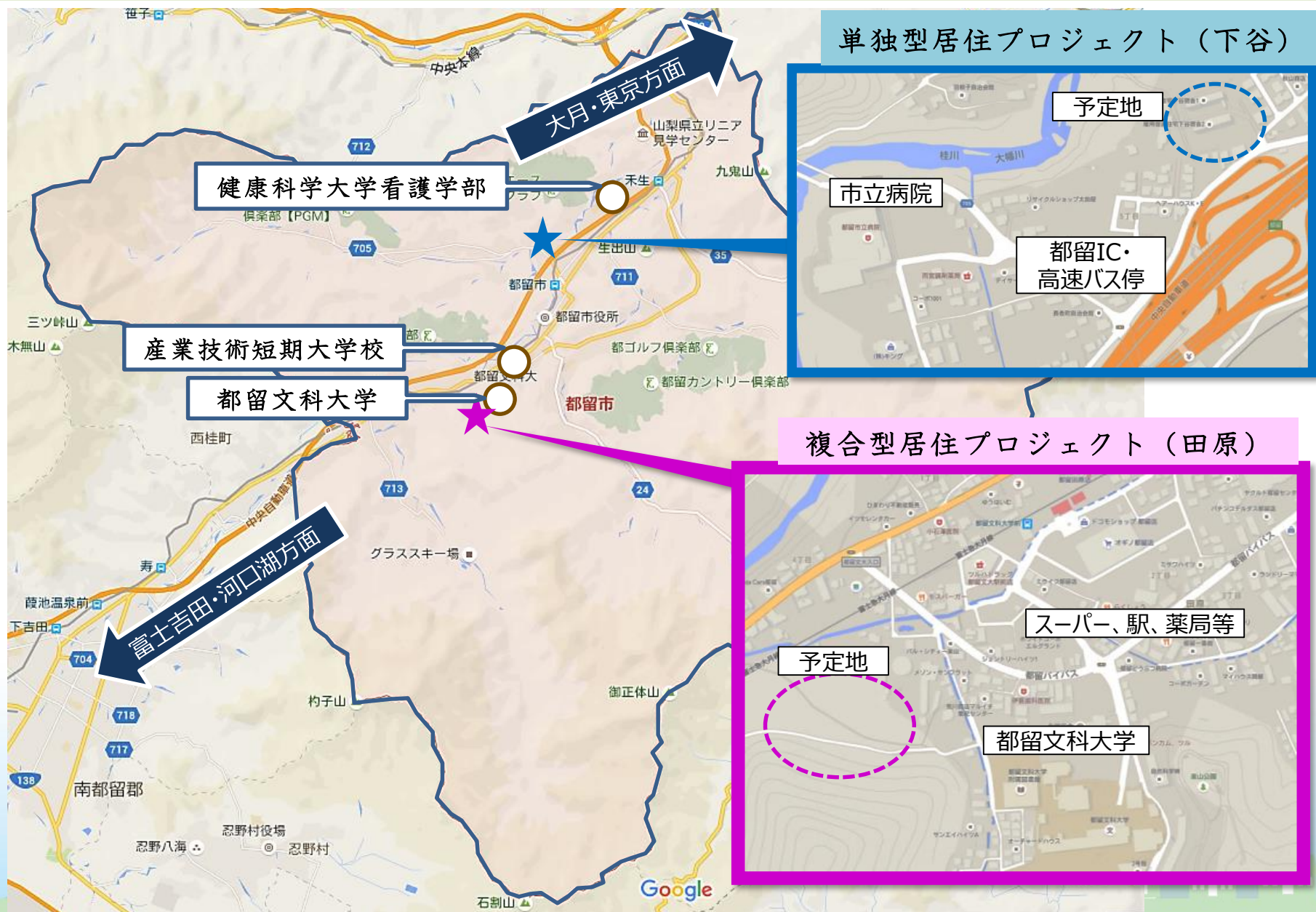
形態：企業誘致による事業地開発

立地：都留文科大学近隣

規模：5棟程度（約140戸程度）

- ・市有地を選定事業者が貸し、事業者が高齢者サービス施設等の複数施設で構成
- ・家賃等は厚生年金受給世帯でも入居できる費用を目途として事業者提案
- ・都留文科大学教員・学生との多世代交流拠点施設も整備
- ・食堂、サロンなどの交流空間を設置
- ・賃借料や固定資産税額の軽減支援策を検討

▶2つのプロジェクトと位置



出典：Google map

▶各プロジェクトのスケジュール

項目	内容	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
移住促進	・お試し居住実施	基本計画 事業計画 策定	開始	施設増設				
	・移住イベント出展		市・先輩移住者による出展		事業者との協働			
	・移住相談窓口運営		移住相談	東京：「生涯活躍のまち移住促進センター」	都留：「都留市移住・定住相談センター」			
大学連携	・大学コンソーシアムつる	設立			運営			
	・市民大学		調査・研究・検討		設置・運営			
	・OB、OGへのPR		大学同窓会へのPR・意見ヒアリング					
生涯学習	・プログラム情報一元化	市内調査・研究	テスト実施		運用			
	・既存プログラム見直し	市内調査・研究・検討・実施						
健康・長寿	・健康ポイント・プログラム開発	市内調査・研究	テスト実施		拡充・普及			
	・地域包括ケアシステム	多職種連携会議	地域ケア会議		地域包括ケアシステム実施			
居住環境整備	・CCRC構想研究会		●●●●●●●●					
	・単独型居住プロジェクト		土地・建物取得	公募	選定	事業契約	設計・工事実施	入居開始
	・複合型居住プロジェクト		土地交渉・取得・家屋移転		公募・選定	(H32年度末の完成を目指す)		

「生涯活躍のまち・つる」構想を実現するには

移住者からも 市民からも

「魅力的なまち」であること

「生涯活躍のまち・つる」構想は 目的でなく「手段」

目指すのは 市民全体の豊かなくらし

「生涯きらめきのまち」

